

児童虐待防止 児童の変化をチェック！

1 幼児・児童・生徒の様子で、虐待と思われる「変化」をとらえる

(1) 登校(園)時の出席調べや健康観察などの場面で

- 傷跡やあざ、やけどの跡などが見られる。
- 過度に緊張し、教師と視線が合わせられない。
- 季節にそぐわない服装をしている。
- 兄弟で服装や持ち物などに差が見られる。
- 連絡もなく欠席する。

(2) 授業中や給食時などの生活場面で

- 教師等の顔をうかがったり、接触を避けようとしたりする。
- 最近、急に気力がなくなる、字が乱雑になるなどの様子が見られる。
- 他者とうまくかかわれず、ささいなことでもすぐカッとなるなど乱暴な言動が見られる。
- 握手など身体的接触に対して過度に反応する。
- 他の人を執拗に責める。
- 動植物等の命あるものをいじめたり、生命を奪ったりする。
- 虚言が多かったり、自暴自棄な言動があったりする。
- 用事がなくても教師のそばに近づいてこようとする。
- 集団から離れていることが多い。
- 食べ物への執着が強く、過度に食べる。
- なにかと理由をつけてなかなか家に帰りたがらない。
- 必要以上に人に気に入られるように振舞ったり、笑わせたりしようとする。
- 日常の会話や日記・作文等の中に、放課後や休日の生活の様子が出てこない。

(3) 健康診断の場面で

- 衣服を脱ぐことに過剰な不安を見せる。
- 発育や発達の遅れ、虫歯等要治療の疾病等を放置している。

(4) 保護者とのかかわりの中で

- 子供とのかかわり方に不自然なところが見られる。
- 発達にそぐわない厳しいしつけや行動制限をしている。
- 長期にわたって欠席が続き、訪問しても子供に会わせようとしない。
- 家庭訪問や担任との面談を拒否する。
- 連絡帳への返事がなく、学校からの電話には出ない。
- 子供の健康状態に関心が低く、受診や入院の勧めを拒否する。
- 子供の外傷などに対する説明に不自然なところがある。
- 欠席の理由や状況の説明に不自然なところがある。
- 子供の発育等に無関心であったり、育児について拒否的な発言があったりする。
- 他の保護者とかかわることを極端に嫌う。

2 「虐待を受けたと思われる」児童について、学校内で組織的な対応をする

- ① 校長に、虐待を受けたと思われる子供について速やかに報告している。
- ② **不審に感じた時点から、時系列で記録をとっている。**
- ③ 全教職員に共通理解を図っている。
- ④ 子供の様子、保護者の様子について、組織的（民生児童委員、児童館・放課後子供教室の職員等も含む）に情報の収集に当たっている。
- ⑤ 情報収集と同時並行して、対応について校内で協議している。
- ⑥ 子ども家庭支援センター又は、児童相談所等に速やかに通告している。